

令和5年度 学校関係者評価結果報告書

学校名	成田市立遠山小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

育て駒っ子 かしく やさしく 健やかに ～ふるさとを愛し 未来をたくましく切り拓く～

学校関係者評価委員

2 本年度の重点化された具体的な目標

①確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、基礎学力の向上を図る。</li> <li>授業力の向上をめざし、教職員一人一人が自ら進んで研修する姿勢を大切にする。</li> <li>タブレット端末を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの視点にたった授業を実践する。</li> <li>学校林「駒の森」を活用した環境教育を実践充実する。</li> </ul>
②豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>「考え、議論する道徳」を意識した指導方法の工夫改善を図る。</li> <li>人権尊重の理念の理解を基盤に、いじめを許さない学校づくりに努める。</li> <li>集団活動を通して、「ありがとう」と言える子「ありがとう」と言われる態度を育成する。</li> <li>児童の実態を把握し、体育の授業及び日常生活における運動実践の充実を図る。</li> </ul>
③健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教育活動をキャリア発達の視点で関連付け、キャリア発達を支援する。</li> </ul>
④キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>成田市小中学校英語科指導基準に基づいた英語教育を充実する。</li> </ul>
⑤グローバル化に対応した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だより・学年だよりの発行や学校ホームページの随時更新により、情報発信に努める。</li> </ul>
⑥地域と共に歩む学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の教育力を有効に生かして、地域に根ざした特色ある学校づくりに努める。</li> <li>防災教育を充実し、「自分の身は自分で守る」という防災意識の定着を図る。</li> </ul>
⑦安全安心な学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人・保護者の立場に寄り添いながら、合理的配慮に関する共通理解を構築していく。</li> </ul>
⑧特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内行事等のスリム化を図り、業務の総量を減らすことで児童に向き合える時間を創出していく。</li> </ul>
⑨教職員の働き方改革	

6名

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
学校運営 教育課程	保：児童は学校が楽しいと感じているか。	保護者の90%から「適切である」との支持を得た。	A	児童や保護者のアンケートからは、児童にとって楽しい学校であるという回答を得ている。これは、少人数学校ならではの学年を超えた人間関係作りの充実や、保護者を含めた子どもたちが楽しみにしている様々な活動の充実が大きな要因であると考えられる。次年度は、これまでに児童が主役となって、学校行事等に参画していける体制を、教育活動全般にわたって計画していく。また、「駒の森を育む会」等の地域人材や保護者と連携し、児童にとってより充実した教育課程となるようにしたい。	A	A
	保：児童の個性に応じた配慮や支援を行っているか。	保護者の93%から「適切である」との支持を得た。	A			
	児：遠山小は、明るく楽しい学校だと思うか。	児童の97%から肯定的な回答を得た。	A			
	職：各教科の年間指導計画・週案などが適切に作成されているか。	「十分」と考えている教職員は14%であり、「概ね十分」は71%	B			
学校関係者による意見等	遠山小の特生からして、児童は保守的な思考になりがちになる。卒業後、多様な人間の中に入るための準備や経験が必要になるのではないかと。行事や校風の変化にも対応できる人間に育てていく必要がある。					
学習指導	保：教員はきめ細かい学習指導に努めているか。	保護者の97%から「適切である」との支持を得た。	A	学習指導については、概ね良好な回答を得ているが、進んで発表しているかという点では、80%を下回っている。教職員においても、自主的自発的な学習という点で、9割を超えていないことと関連している。タブレットを活用して友だちどうしの意見交換の充実を図ってきたところではあるが、これまでに以上に、児童が自発的に思ったことや考えたことを声に出して授業に取り組みする環境づくりを構築していく必要があると考える。授業研修を推進し、「主体的対話的な深い学びの実現」を目指した授業を全学年で展開していけるよう努力していきたい。	A	A
	保：学習に進んで取り組む子に育っているか。	保護者の89%から「適切である」との支持を得た。	A			
	児：授業中、進んで発表しているか。	児童の75%から肯定的な回答を得た。	B			
	児：担任の先生は、間違えたり分からなかつたりした時に、分かるようになるまで教えてくれるか。	児童の94%から肯定的な回答を得た。	A			
	職：一人一人の状況を把握し、個に応じた指導を行っているか。	教職員の85%が「十分」「概ね十分」と考えている。	B			
	職：児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を行っているか。	「十分」と答えた教職員が14%、「概ね十分」が86%。	B			
学校関係者による意見等						
生徒指導	保：児童が困っていたり、悩んでいたりしているときは、先生方が親身になって対応してくれるか。	保護者の97%から「適切である」との支持を得た。	A	保護者、児童からは概ね良好な回答を得ている。生徒指導については、生徒指導部を中心に、教育相談員やスクールカウンセラーの配置、相談ポストの設置、年5回の学校生活アンケート、教育相談等を実施し、問題の未然防止、早期解決に努めている。しかし、中には、悩みを抱えていてもアウトプットできない児童も複数いるのが現状である。スクールカウンセラーとの教育相談など、悩んでいることを気軽に口にできる場を増やしていきたい。基本的な生活習慣については、あいさつや言葉づかい、時間のけじめ等、学級担任の指導が浸透しつつある。	A	A
	児：先生は、休み時間に一緒に遊んだり、おしゃべりしてくれたりするか。	児童の89%から肯定的な回答を得た。	A			
	児：先生は、困った時にいっしょけんめい相談にのってくれるか。	児童の100%から肯定的な回答を得た。	A			
	職：基本的な生活習慣を身に付けさせるための工夫がなされているか。	教職員の85%が「十分」「概ね十分」と考えている。	B			
	職：児童のことで職員が共通理解し、全体で取り組む体制が整備されているか。	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A			
学校関係者による意見等						
道徳 人権教育	保：相手の立場を考え、協力する子に育っているか。	保護者の97%から「適切である」との支持を得た。	A	いじめ・不登校支援については、週1回開催している生徒指導委員会で組織的に迅速に対応している。また、特別支援委員会を設け、各学年で個別の支援が必要とする児童について、全体で共通理解を図っていった。異学年交流(たてわり清掃、たてわり遊び、委員会・クラブ活動など)を通じて、温かい人間関係づくりを継続して行う。	A	A
	児：困っている友達がいたら、声をかけたり手助けをしたりできるか。	児童の94%から肯定的な回答を得た。	A			
	職：児童一人一人のよさを認める指導がなされているか。	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A			
学校関係者による意見等						
保健 安全管理	保：運動に親しみ、進んで体を鍛える子に育っているか。	保護者の86%から「適切である」との支持を得た。昨年度より1割程度向上し	B	保護者からは昨年度より評価が1割程度向上した。しかし、3割近くの児童が自分の体力作りの取り組みに否定的な意見を持っている。マラソン、なわとびなど、季節ごとの種目に熱心に参加しているが、運動面に関して自信をもつことができない児童も少なくない。登下校の多くが自家用車やバスを利用していることや、近所に友だちがいないことで下校後に外遊びをする機会が極端に少ないことが要因の一つであると考えられる。今年度は、校長が休み時間に新しい遊びを子どもたちに教えるなど、児童が自発的に運動する環境を作った。今後も、環境を整えていきたい。	A	A
	児：進んで体力づくりに取り組んでいるか。	児童の74%から肯定的な回答を得た。	B			
	職：体育指導、健康教育の充実を図っているか。	教職員の85%が「十分」「概ね十分」と考えている。	B			
学校関係者による意見等	体力向上・運動能力の向上という目標があるかもしれないが、経験としての体育授業も重要な役割である。					
保護者・地域との 関わり	保：学校便りや学校公開、行事への参加等で学校の様子を知ることができるか。	保護者の96%から「適切である」との支持を得た。	A	今年度も、PTAによる遠山まつりやもちつき大会を盛大に行い、多くの保護者の協力を得ることができた。また、学校林「駒の森」を教材とした環境学習、ギター演奏家を呼んでの駒の森音楽集を実施する等、充実した活動ができた。次年度も地域や家庭との連携を密にとり、児童の地域愛をさらに深めていく活動を行ってきたい。	A	A
	職：地域の教育力、外部人材を活用した授業や行事が充実したか。(各教科・素敵な先輩シリーズ)	教職員の100%が「概ね十分」と考えている。	A			
学校関係者による意見等						

A(適切な評価である)、B(ほぼ適切な評価である)、C(やや不適切な評価である)、D(不適切な評価である)

4 次期の重点目標と改善のための方策

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、特に個別の学習支援とともに個々の考えを発言により伝え合う活動に力を入れていく。また、協働的な学びを推進していく必要がある。
- 児童数は少ないものの、人数が少ないが故の生徒指導的な事案もある。少人数の特性を生かした異学年の交流をさらに推進していく。また、道徳教育の推進をさらに進め、よりよい学校生活を送ることができるようにしていく。
- 運動に関しては、遠山小ならではの普段の運動量の少なさを改善する必要がある。単に運動量を増やす取り組みではなく、休み時間等に楽しく体を動かすことができる活動内容の改善により、多くの児童が進んで運動に親しむ姿がみられた。今後も継続した体力向上を行わせていきたい。
- 保護者や地域から温かい支援を受けているものの、複雑な家庭環境によって生活習慣の乱れている児童や特別な支援を要する児童への対応を引き続き継続していく。
- 少人数のため、多人数での交流活動の経験ができない現状がある。近隣学校との交流を積極的に進めていけるよう教育課程を編成していく必要がある。